

梢をつたふ樹枯か

さては妻こふ小男鹿の

重ねくりに打亂る

心の駒の聲たらく

轡の音も聞ゆあり

あはれ人あき山里に

駒打入るゝ人やたれ

いふかり乍ら去をり戸を

あけて誰ぞとおどかへば

思ふべしやは思ひきや

なさけも深き我君の

露の玉章傳ふめる

都の空の雁がねやこれ。

鶯花契萬春

野尻 狂介

萬代の春もかはらしさく花を

たどりていはふ鶯の聲

咲きにはふ花の林に鶯の

萬代いのる聲のさこゆる

遠山霞

むらさえに残る白雪さむたれは

霞の衣今日は着にけむ

夜 雨

春といへど淋しさいとゝまさりけり

小雨ふる夜の旅の枕は

雨後新樹

氷 川

をしまれし花のなこりにひきかへて

雨に色ろふ若葉をそ見る

蛙

櫻花ちりて流るゝ谷川の

このもかのもとに蛙あくなり

欸 冬

春雨の露に色香もまさりつゝ

匂ふま垣のやまふきの花

友 情

としふとも變らぬ人の心ころ

むすふまことの道の友垣

風前落花

硯友會員 受樂院義春

吹まゝにこするはなれて春風の

行衛見せてもちる櫻かき

春曉月

はのくくと白み初る山の端に

かすみてのこる有明の月

川山吹

谷水のすゑくむ里やいかならむ

花さきにけりさしの山吹

郭公

聲はろり雲間の月に残したきて

すかたは見えぬ郭公かな

更衣

巴城子

けさかふるかるき衣にひきかへて

重きは我のねほせありけり

聞杜鵑

雑報

いまははやさ月來ぬらむほととぎす

卯の花かけに聲のきこゆる

雨後新樹

夏山の木々の夏か葉もさまたまの

はれて緑の色そまされる

冬

ものいはて色香をつかし川岸の

つゆにしをるゝ山吹の花

折

かへるさのみちのすさみに手折てう

家つとにせん春のさわらひ

○校報一東

中川學校長は高等中學校長會議臨席の爲め去日上京の途に就かる●潮田教授は

東京地方裁判所判事と轉任されたり●明治廿二年來教鞭を執られ玄矢津助教授は本校を辞して新に

高等師範校助教授に任せられたり●潮田教授の後任としてバチエラー、チブ、ロー田中玄黃氏、矢津助

教授の後任として篠本二郎氏過日本校教師を囑托されたり●書記肝属兼寛氏は學寮係兼勤を命せら

る●秋吉助教授は過日非職被仰付られしか今回更に体操科授業補助を命せられて復校せられたり●

雇三池全津同安東大三の二氏は助教授に任せらる

○龍南會記事

會規より本月初旬を以て行ふへき本會委員改撰は故ありて去月二十六日に